

総合テーマについて

—共に生き、共に育つ保育を实践しよう—



第一回の真宗保育同朋会議が七月十日から十二日にわたって行われました。その開催趣旨にいうように、設置者・園長・保育従事者そして保護者の代表が、真宗保育の原点を宗祖聖人の御真影にひざまずき確認をさせていただく会であり、この会議において向後二年間の協会の総合テーマ、各部の研究テーマ、実践テーマを見出し出すためのものでした。

つみ重ねた話し合いのなかから、
 “共に生き、共に育つ保育を实践しよう”という総合テーマが生み出されました。

“共に生き、共に育つ保育”とは、こどもはむろんのこと、教諭保母、園長、保護者、そして園をとりまく地域住民もまた育てられる存在とし、育てられ合う関係を広げていくとすることにほかなりません。

真宗保育

共に生き、共に育ちあう保育を
 実践していこう

(3)

1982.9.20

発行 社団法人・大谷保育協会
 発行代表者 井伊各量

〒600

京都市下京区烏丸七条上ル
 真宗大谷派宗務所
 青少年部内(事務局)

TEL 075-371-9181
 振替 京都 2-11705

育てられ合う関係とは、上下の関係ではなく、共に同じ基盤の上に立つ平等の関係を意味しますし、平等の生命と生命とが呼応し合い、共鳴し合う関わり合いをもっていく生き方をそれぞれの立つ場所から行っていくことなのです。

いま、生命を殺し、侵すことのみならず、私にも多い時代であればこそ、私に固執することで私を見失うことの多い時代であればこそ、生命の平等という大原則に照らし、生命の平等を守り得る状況をつくっていくとすることなのです。すべてを照らす鏡として生命の根元に問おうとするのです。

真宗保育の確立への道は、真実を宗として私自身を問う姿勢から、保育を問い、施設のあり方を問い、地域を問い社会を問うことなのです。私自身の生きる上の問題として問うことなのです。

私自身の生きる上の問題とするということは、孤立した個の立場でというのではなく、共に生き、共に育つ関係のなかでということなのです。問うことが実践なのですし、実践のつみ重ねこそが真宗保育の確立への道なのです。

研究部研究目標について

「真宗保育の確立を願って」

私たちはこれまで、真宗保育を一般的な概念としての保育との比較の上でとらえたり、一般的な概念としての保育に、なにかをつけ加えれば成り立つのだとは考えてきませんで

した。
このことは、保育を保育者の生きる上の問題として問うという姿勢を常に持ちつづけてきたことを意味します。

つまり、生きようとしている私の、生きる実体として保育に関わることで私自身の生き方を問うことであつたのです。

また、保育を共に育ち合う人間と人間との関係のなかで共に生きることを考えてきましたし、そのつみ重ねのなかで真宗保育を顕らかにしようとしてきたのです。

いま、同朋会議を終えてこれまでの姿勢に誤りのなかつたことを確認するとともに、育ち合う関係の成り立つ基盤が生命の平等にあることを確かな手応えをともなつて持つことができました。向後一年間の歩みを、生命の根元に問うことで豊かな実践

をつみ重ねていこうとするのです。具体的な保育現場のなかで、生命の平等を問うことで保育を考えていくにはありませんか。

研究課題

- ① きまり、約束、規律から保育を考える。
- ② できる、できないから保育を考える。
- ③ 仲間、友だちから保育を考える。
- ④ 競争心から保育を考える。

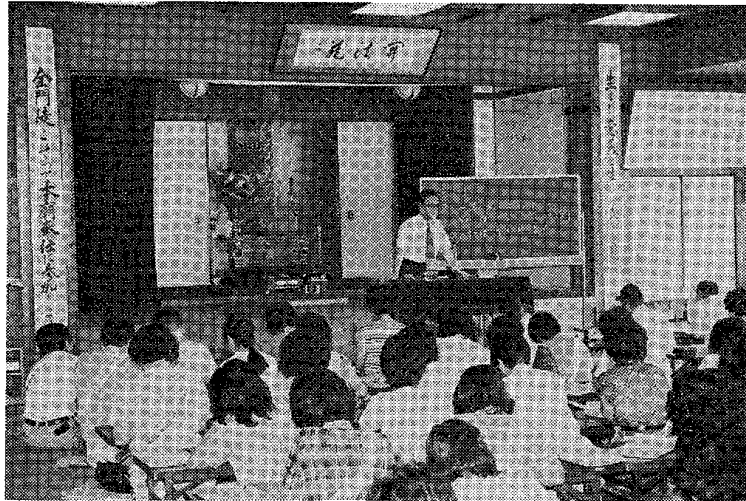
①は、集団と個の関わりの中で個の尊重とはどんなことか、集団と個が対立したとき何が優先するのか、②は、できないことに較べてできることが善いとする考え方があつたなかで評価の問題を、③は、育ち合う保育者集団とはどんなものなのか、④は、勝ち負け・成功と失敗というものから集団のなかでのことも競争心を。

これらの研究課題は、真宗保育こそが保育の本道であることの確信から生まれたものです。それぞれの地域で、それぞれの園で、豊かな実践をつみ重ね、その実践をもち寄ろうではありませんか。そのときまで、観察記録をとりつづけ検討しつづけてください。

母と子の対話を求めて

<p>劇画 手塚治虫プロダクション 一向一揆 未刊 六字の砦</p>	<p>ジャータカ物語Ⅱ 小学生向 さく/渡辺愛子 月のウサギ</p>	<p>ジャータカ物語Ⅰ 小学生向 さく/渡辺愛子 かんしゃく持ちのまきま</p>	<p>1〜5才向 さく/祖父江文宏 いきるってなあに 未刊 え/椎野利一 いきるってなあに</p>	<p>1〜5才向 さく/祖父江文宏 おやすみなさい 未刊 え/山田哲也 おやすみなさい</p>	<p>6〜9才向 え/やまだみどり しんらんさま</p>	<p>6〜9才向 え/加藤義明 おしゃかさま</p>	<p>6〜9才向 え/水野二郎 れんによさま</p>	<p>1〜5才向 さく/祖父江文宏 ててて え/よしもとたかこ ててて</p>
未定	580円	580円	350円	350円	600円	600円	600円	350円

〒600 京都市下京区烏丸七条上ル **東本願寺出版部** ☎075-371-9181 振替京都0-27404



振興部実践目標について

長い長いばらの道を、数しれぬ先輩が歩み、願い願われるものとして到達した社団法人化。この公益法人の歩みこそ真実を問いかけるにふさわしい、共に生きるものの悩みを解決する集まりである。真宗保育同朋会議はこの意味において新しい道をさぐり、過去の歩みを反省しつつ現実に直面する問題を共に語り、共に明らかにする大切な機会であった。

私ども、教区からの代表者である園長・設置者・保育従事者そして父母が一堂に会し、二泊三日間において、法を聞き、共に語り、多くの諸問題を協議した結果、つぎの点を確認し合つて方向を位置づけることができた。園づくり部会は、単に園を運営する責任者のみの集まりとすることなく、園に属するすべての者が幼児の保育を通して園づくりしていくことを目的とした機関として討議がなされた。

そこで総合テーマを受け、我らは今年から来年の大会に向かって「手を合わす子と共に、手をとり合つて」園づくりしていくことが了解せられた。このテーマのもとに、つぎの四点を実践の目標として定めることができた。

一、真宗保育の内容をより深めながら、園づくりにたずさわっていただく。

二、大谷派寺院に属する保育施設は、すべて社団法人大谷保育協会に加盟しよう。

三、社団法人を、ひろく公共機関に周知徹底させ、公益法人の権利を明確にさせていく。

四、加盟保育施設の存続と充実を、共に手をとりあつて努めていく。

このような願いの達成には、今年度は特に加盟促進を重点的に実践していきたいが、宗務当局はもちろんだること教務所機関を通してこの実現

に協力をおおぎたい。会員の全加盟は公共機関に対しても、また保育関係諸団体にも協調の実をあげられることになると思ふものである。

生命あるものが共に真宗保育に目ざめることの願いをこめて、園づくりや保育実践につながるよう努めていきたいものである。

“真宗保育同朋会議”に参加して

山陽・いずみ保育園々長

名和 俊 栄

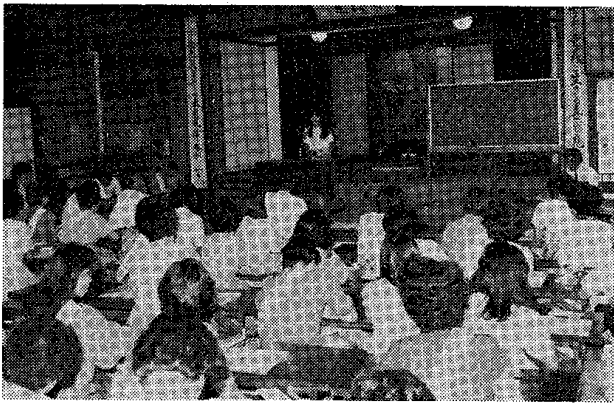
“真宗保育同朋会議”という名の

もとに改めて御真影様の前にひざまずき手を合わせていると、いろいろな事が思いおこされる。

あやまりのない保育の大道とおっしゃるが、私どもをみ光につつま導きくださったお念仏。私のような者も今日まで子供達と手を合わせつつ続いた保育の道。み光のもと、のの様、アマダ様、ナムアマダブツ、シンラン様と小さな口でとなえつつけて園を出ていった子供達が、ほうふつと浮かびます。

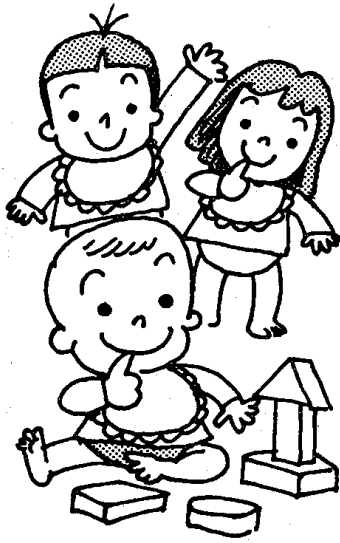
若い保母さんのなやみは新鮮でたくましいが、私かなやんできた道でもある。その声を聞きつつ親鸞様、私は幸せと思ひます。

井伊先生はじめ諸先生方の御苦勞はますます重くなりますが、雄々しい中堅のたくましい先生方が並んでお食事をなさつていられるお姿を見



て、うれしくて思わず涙が出ました。まったく、大谷保育よどこへ行くと言いたい時もありましたが、今日こそ、今日こそしつかり形ができましたこの喜びは、先生方も如何ばかりでしょう。人の熱の尊さを楽しみ感じます。

大谷保育に一度出席してから、これこそ我が道と信じすがりついてお育てにあずかった御恩は、何にもたとえようがありません。こんな者ですが、走り使いくらいなら……残れるエネルギーを大谷保育と子供達にもやすつもりです。一生懸命、幼子



と共に育て育ちたいと思っております。

このたびの会議は保母様方も感銘深かった様子、ありがたいのですが、けれど、私はいつも思うのですが、聞法を願っている保母さんが多いのもっと広くたくさん出席できる方法はないか。

また、この会に入会しない園、関心を示さない園長さん達が多いのはかなしいことです。山陽もたいへん低調なことです、かなしいと思えます。

三重・村松保育園保母

世古 佐代美

毎日の保育の中で、自分はいったい何をしてきたのかということを考えさせられました。

いのちと平等をはじめ、とてもむずかしい題材ではありましたが、人間が本当の人間になっていくということは、いのちをぬきにしては考えられないということに気づかさせていただきました。松永先生のお話にありましたように、いのちをいただいている喜び、またみんなとはいのちでつながっているというお話にとても心うたれました。

私も保育園にはいつて嫌なことなどたくさんあり、この世から消えさりたいと思ったこともあり。親からもらったこの命など、大切にすることなど心のどこにもありませんでした。いのちをそまつにすることを平気でやっていた自分にはずかし、反省させられました。

これは、自分だけでなく、毎日私がかもにしている子供たちに対してもそうではなかったのかと反省するとともに、子供とともに育っていきたいと思いました。

できる子、できない子に対して、私自身自分だけの都合だけで子供を判断したりして、決めつけていたところがあり、もっと子供の本当の姿が見られるようになりたいと思いました。今回の研修は、ひと味ちがったように感じました。

北海道・名寄大谷幼稚園教諭

笹田 和美

この研修会に参加して良かったと思います。何か胸をドカンとはたかれたような気がしました。この気持ちをうまく文章に書くことができず残念に思いますが、このドカンとした気持ちを大切にこれからの保育にあたりたいと思います。

新刊書案内

大谷派全国保育大会講演録

この身あり

—保育する母へ—

頒価一三〇円（七一七〇円）

広瀬泉述／被教育的存在としての「人間」／「完結」の連続／賜りたる生命の共感／現代教育のなかで失われていくもの／真宗保育

京都下京烏丸七条上ル 東本願寺出版部